

現地実習Ⅱ

森林・里山の整備(人工林)と作業の安全管理

日時：平成22年11月6日(土) 10:00~15:00

講師：安全管理士、あいち海上の森センター職員・海上の森の会

概況

1 午前(座学)

- 林業労働災害の現状と災害事例【愛知県農林水産部林務課 主査 浅田文仁】
 - ・全国の全産業における死傷災害は、近年、減少しているものの林業労働災害は横ばいから軒増傾向にある。発生率は、全産業中、最も高い。
 - ・死亡災害を作業の起因別に見ると伐採、搬出作業中のものが約8割を占めるとともに、年齢別には50代以上が約7割を占めている。
 - ・伐採作業中の事故は、間伐においての「かかり木」の不適切な処理によるものが多い。
 - ・ハチ刺されによる死亡も、毎年あり注意が必要である。
- 森林整備活動における安全
 - ・服装は、安全の基本。すそじまりのよい長袖の上着と長ズボンを着用し防護具と滑りにくい履物を着用する。
 - ・森には、様々な危険なものがあるので十分注意すること。ハチ、毒ヘビ(マムシ、ヤマカカシ)、植物(ウルシ類、ノイバラ、ススキ類)
 - ・使用する道具の特性や基本的な使い方を知る。(力の入れ方、木を切る場合の木や枝にかかっている荷重など)
 - ・安全作業の励行(木の伐採は、正しい手順と正確な作業で)

2 午後(実習)

- 前回(10月24日)、間伐実施のための現地調査を行った森林で間伐の実習
 - ・間伐の実際
 - ①伐倒方向の確認 ②退避場所の確認と伐採木の周囲の整理 ③正確な受け口づくり ④正確に追口切り ⑤伐倒の合図 ⑥退避 ⑦かかり木になった場合は、適正な処理
 - ・間伐後の森林内の様子を観察する。空間が空いて森林内に光が差し込んでくることで林床に植生の導入を促す。(間伐の必要性の確認)